

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 6年 7月 14日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200197		
法人名	株式会社 エポカケアサービス		
事業所名	グループホーム 五日市・みどりの家		
所在地	〒731-5128 広島市佐伯区五日市中央五丁目1番18号 (電話) 082-554-5701		
自己評価作成日	令和6年6月19日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200197-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和6年7月9日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

「ゆっくり、いっしょに、たのしく」という、みどりの家 共通理念の実践により、入居者の方に対し「共感する心・思いやりの心」を高めています。 家庭的な関わりを行い、私たちが入居者の方の家族の一員として同じ時を過ごしています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

理念、一人ひとりの生きて来られた歴史を大切にし 同じ人間として尊重 職員自身が年を取った時、生活場所として思えるよう利用者の日々の生活について考え 基本方針「ゆっくり、いっしょに、たのしく」笑顔の多い毎日を過ごせるよう毎日の申し送り時や全体会議、ユニット会議で周知し実践し取り組んでいる。会議は事前に職員から提案やアイデア、意見をアンケート用紙で提出し議題に揚げ、取り組みや改善策を協議し日々のケアの反映に繋げている。外出が難しい中で担当職員が中心となり事業所内で出来る行事で玄関フロアにあるシンボルツリーの四季の移り変わりの風景や食事レクリエーション、おやつレクリエーション、母の日にはお洒落して祝うなど、職員のアイデアを活かした催しを行っている。
--

自己 評価	外部 評価	項 目（ 北 ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念実現に向けて「ゆっくり・いっしょに・たのしく」という基本方針をホールに掲示し、朝礼の際に唱和を行うことで常に意識できる環境づくりと、面談や考課表記入の際にも理念に向けた実践について協議する時間を設けている。	理念をもとに基本方針を掲示し、申し送り時に唱和し、全体会議やユニット会議で意識づけ習得し、面談などにて達成度の検証をしている。全職員が情報共有を行い、利用者が家庭的な雰囲気の中で自分らしく過ごせるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域住民とは日頃から挨拶や回覧板の受け渡しを行い顔の見える関係作りに努めている（育てた野菜を交換することもあり良好な関係である）。今年度より、町内会に加えコイン通り商店街の組合へ賛助会員として加入している。より地域へ根付いた施設運用を行っていく。	散歩の時、近隣の方との挨拶や中学校生徒の職場体験受け入れ、生徒が育てた花の持参や建物2階に小規模多機能事業所があり、関係者からの問い合わせや介護保険申請の相談などがある。町内会や商店街のイベントや催し物に地域の一員として参加を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ホームへの問合せ・相談は随時受け付けている。また、ご要望に応じて自宅にお伺いし資料を用いて説明・紹介等している。その際、自ホームの情報だけでなく他ホームの情報なども確認し、お伝えすることを心掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在、コロナ禍により意見照会による開催となっているが、いただいた意見をホームの運営に反映させている。また、他法人の運営推進会議（意見照会）にも積極的に関わり情報交換している。	運営推進会議は他グループホーム事業所の参加がある。事業所の現状報告や取り組みなど資料を直接構成員に手渡し、運営推進会議についての照会（依頼）内容にて意見交換をしている。尚構成員からの質問内容については次回開催資料を持参した際に回答している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	区の介護保険課との具体的な連携はない。但し、運営推進会議（意見照会）にて地域包括支援センターの方と意見交換や地域の情報を共有させていただいている（コロナ禍前は、運営推進会議に参加いただいていた）。	市担当者とは書類の提出や相談など行い信頼関係の構築に努めている。地域包括支援センター職員は運営推進会議の書類にて参加があり、情報や意見交換の場となり反映に活かせるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目 (北)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年間研修スケジュールに組み込み、職員の意識向上に努めている。また、3ヵ月に1回、身体拘束適正化委員会を開催し、各ユニットの情報共有を図り、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	身体拘束適正化委員会や内部研修を通じて、具体的なケアの中で身体拘束による弊害を認識し、個々にチェックリストを活用し振り返りを行っている。スピーチロックや不適切ケアなど指導や職員間で話し合いを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年間研修スケジュールに組み込み、職員の意識向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度についての勉強会を来期のカリキュラムに加え、見識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項／契約書など、説明を丁寧に行い同意を得ている(不安なことや疑問なことがないか確認している)。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時や電話をする際に意見交換させていただき、何かあればミーティングの議題としている。また、運営推進会議(意見照会)やケアプラン変更時の面談などで意見・アドバイスをいただいている。	電話や面会以外に毎月担当者(月ごとに担当が変わる)による、ホームの生活の様子[健康面・生活面]、家族にお知らせ、今月のベストショットの便りを家族に送付し、意見や要望を聞く機会を設けている。頂いた意見は会議の議題に揚げ協議しプランに反映している。	

自己評価	外部評価	項 目 (北)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体ミーティング、及びユニットミーティングで意見・提案を聞く他、面談や日常的にコミュニケーションを取り意見や提案を発信しやすい環境づくりに取り組んでいる。※ミーティングについては、コロナ禍の影響により書面回覧対応とした月あり。	全体会議やユニット会議には事前に職員は匿名にてアンケート用紙に意見や提案など提出している。会議で意見や提案などを情報共有し、利用者に合った介助法や行事や取り組みに活かせるよう環境作りを実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	キャリアアップ制度を整え、給与水準・労働条件などの職場環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月、ホーム内勉強会を行い、知識を身につける機会を確保している。現場内での役割の意識、個々の能力に応じてアドバイスを指導を行っている。尚、感染症の状況を踏まえ外部研修にも参加していく方針としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	運営推進会議への参加（意見照会）や、地域包括支援センター主催の勉強会・イベントに参加している。また、区のグループホームネットワークに加盟し、空室状況等の共有も行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にケアマネジャー、ご家族、医師、相談員等、関係者から情報提供を受け、訪問面談を実施している。また可能であれば、入居前にホーム見学(ご本人)をしてもらい、安心していただけるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目 (北)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時資料(ご家族記入分)を基に話し合いを重ね、ケアプランに反映している。入居後もメールや電話により日々の様子を報告・相談させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人・ご家族の思いを丁寧に聴きとり、できる事とできない事を見極めて、ご本人に合ったケアプランを作成するように努めている。また具体的なサービス内容を明記することで支援の統一を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活の中でご自身でできることを活かして、それらを持続していけるような支援に取り組んでいる。ちょっとした役割を持ち、それに対して周りから感謝されることで生きがいを感じながら過ごすことができるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の面会時や電話で会話をされた際に、ご本人のとても良い表情がみられることをお伝えしている。また、毎月のご様子を送付し、気付きや相談を日々させていただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人・知人の来訪にはホームをあげて歓迎していたが現在はコロナ禍により親族のみとさせていただいている。しかし手紙や電話の取次ぎ等、今できる範囲の支援をさせていただいている。	人や場との繋がりが希薄にならないよう制限はあるが面会を行っている。携帯電話でのやり取りや電話の取次ぎ、孫からの手紙、訪問美容の来訪など事業所が出来る範囲で馴染みの人や場との継続支援をしている。	

自己評価	外部評価	項 目（ 北 ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活のなかで入居者同士のコミュニケーションを大切にし、皆さんが主役となるように職員が関わることで、良好な関係づくりを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	長期入院となり退居する事となっても、ご本人・ご家族が困る事がないよう、円滑に次の支援につながるサポートを行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の関わりのなかで、表情・言葉・エピソードなどを日誌や伝達ノートに記録し情報共有できるようにしている。また、計画作成担当者が計画業務日に職員の気づきを聴き取ったり、ユニットミーティングにて、各入居者様の思いや意向を把握しケアプランに反映している。	生活歴や日頃のケアに関わる中で表情や仕草で思いを汲み取っている。表出の難しい利用者は分かりやすい言葉掛けや筆談などで把握し、業務日誌や伝達ノートに記載し共有している。編み物が得意との情報で今まで行っていた事、出来る事を重要視しプランに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にご家族からこれまでの生活や性格、ご本人の思い、家族関係など無理のない範囲で聞かせてもらっている。入居後ご家族との信頼関係ができてから、あらためて聞かせていただいた貴重なお話は、職員とも共有しこれからの関わりに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケアプランに基づき日々関わらせていただくなかで、変化・気づきを記録にまとめるようにしている。また、情報共有のため申し送りの場を活用したり、検討事項についてはユニットミーティングにて話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目 (北)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月モニタリングを実施し、1年毎に見直すほか、状態に変化が生じた場合はその都度話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	利用者・家族、医療機関、職員など多職種の関係者の意見や提案が反映した介護計画を作成している。毎月のモニタリングは月担当者が関わる事で意識づけを図り業務内容に活かしている。1年毎に見直し、健康面に変化があればその都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	出勤している全ての職員が記録業務に関わるようにしており、小さな発見も見逃さず記録している。また、職員間で情報を共有できるよう連絡ノートの活用も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	職員の友人・知人・ボランティア、ご家族などに運営に関わってもらい個別化・多様性への対応に取り組んでいたが、コロナ禍により外部の方の入出が厳しいことから、ホーム内に居てもお出掛けした気分になれる行事（屋台風のお店や映画館など）に力を入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域行事やお店、施設などに入居者様と出向き、顔の見える関係を広げることで、地域での暮らしを楽しめるよう支援していたがコロナ禍の影響により制限が増えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	内科／歯科の先生に訪問診療（2回／月）をお願いしている。定期処方や緊急時の対応、疾患を早期発見できる体制を築いている。	契約時、利用者・家族に主治医の説明を行い確認をした上で、協力医療機関が主治医となる。月2回の訪問診療、月1回訪問歯科の診療、他科受診は紹介状で家族の協力で受診支援をしている。又週1回の訪問看護師による健康チェックが行われ、医療連携を図り適切な医療が受けられる支援をしている。	

自己評価	外部評価	項 目（ 北 ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	各ユニット週1で訪問看護による日々の健康チェックを行っている。また、体調に変化があった場合には、いつでも電話対応できる環境であり、状況に応じて様子を観に来てもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院には職員が同行し、ホームでの様子・暮らし方などを入院先に提供している（入院時）。入院期間中もMSW（医療ソーシャルワーカー）との連携を行い退院時にはカンファレンスに出席し、病状の説明を受けることで、安心してホームでの暮らしに戻るように取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約の際、重度化／終末期に向けた方針についての確認書をお渡しし、意向などをお聞きしている。その上で、主治医・看護師・ご家族・ホームで連携・共有し、支援させていただいている。	利用開始時に利用者・家族に「看取りに関する指針」で説明を行い書面で事前に確認している。重度化した際は指針に従い適切な支援をしている。看取りの経緯があり、主治医や看護師、職員などが共に今まで生活して来た思いを大切に利用者・家族に寄り添い最期を迎えられるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時連絡網を整備している。ヒヤリハット・事故報告はユニット全員で分析し、情報共有している。また、「緊急時の対応・応急救護」についてのホーム内研修を開催し、学べる機会をつくっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、消防署の協力を得て、昼夜間想定避難訓練を実施している。また、防災委員を選任して全社を挙げて減災に取り組んでいる。来期よりBCP（災害・感染）の研修会も必須となるため全体ミーティング研修会にて行う事としている。	消防署の協力を得て昼夜想定避難訓練を実施している。通報・避難誘導・消火器使用手順など利用者と共にしている。防災委員を設け、日頃から装備品や点検を行っている。非常時に備え食料品に加え自家発電やカセットボンベの温風ヒーターなど検討し全体会議でBCP（事業継続計画）研修会を行う考えである。	

自己評価	外部評価	項 目 (北)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	接遇・倫理研修等を実施し、不適切なケアについて考えてもらう研修を行っている。また、不適切な言葉遣いなどがあつた場合には職員間で注意し合える関係や、管理者・ケアマネジャーに相談報告しやすい雰囲気づくりに努めている。	研修で正しい知識の習得を行い、利用者のペースに合わせた声掛けや介助方法でプライドや人格を尊重した対応をしている。トイレの見守りも羞恥心に配慮し水の流れるセンサーの音での声掛けや名字での呼称など誇りやプライバシーを損ねる事のないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	認知症の理解とケア・傾聴による尊厳の保持など、職員全員が継続して学べるよう、ホーム内研修に組み込んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日のスケジュールは、おおまかなもののみ目安としての時間を決めているが、それ以外は皆さんの思いに添って過ごしていただいている。 急なご希望にも対応できるチーム力を向上させている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節の衣替えを一緒に行い、足りないものをご家族にお願いしている。理美容は訪問してもらい、ご本人の希望に添っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	温かいものを温かいまま提供できるよう事業所にて食事づくりをしている。下ごしらえ・盛り付け・配膳などできることを職員と一緒に、同じものを食べ、会話や食事を楽しんでいる。おやつづくりや季節に合わせた行事食・リクエストにお答えした食事など、様々な側面で楽しんでいただけるよう支援している。	配食業者の献立（半分調理した物が届く）畑で収穫した野菜が食材に加わるなど厨房で調理し、彩りなど考え盛り付け、配膳している。行事の中に昼食レクやおやつレク、リクエスト食など取り入れ楽しみながらの食事や誕生日は誕生日ケーキで祝うなど行っている。利用者は職員と共に食器洗い、台拭きなどしている。	

自己評価	外部評価	項 目 (北)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	テーブルや椅子を整え、美味しく、楽し く食べられる工夫をしている。水分につ いても、こまめにお出しし水分量を記録 することで各人の摂取状況による個別対 応を行っている。※エボカフードサービ スの管理栄養士が立てた献立内容にて提 供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	訪問歯科による指導に基づき、毎食後の 清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	お一人おひとりの仕草や排泄チェック表 を活用し、排泄パターンを把握して、さ りげない声掛けや誘導で、トイレでの排 泄や排泄の自立に向けた支援を行ってい る。	排泄チェック表を活用し、利用者の排泄 パターンを把握し、個々に合った声掛け 誘導でトイレで座位姿勢での排泄支援や さりげない声掛けでパット交換の回数が 少なくなるなど、自立に向けた支援をし ている。運動、水分摂取、牛乳や砂糖を オリゴ糖に変えるなど、自然排泄支援に 取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分量の把握、排便の記録に努め、でき るだけ食事により便秘の予防に心掛けて いる。困難な方には医師に相談して薬の 処方をしてもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	午前でも午後でも、ゆっくり入浴でき るように支援している(週2～3回)。入浴し たくない場合には、声掛けの工夫や日を ずらすなどして対応している。	週2～3回の入浴を基本としている。体調 や気分により日を替えたり、拒否があれ ば声掛けに工夫を行うなど柔軟に対応し ている。浴室は温かな色彩で浴槽両サイ ドに座台があり、左右どちらからでも浴 槽に入れる。福祉用具を利用して無理な く入浴出来る支援をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (北)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	朝日を浴びる起床の声掛けに 始まり、夜の安眠へ導く流れを 支援している。また、シーツも 週1回洗濯し、清潔に努めてい る。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	内服・外用薬のチェック表を活 用し、確実な与薬を実施してい る。変化を記録し、減薬に繋 がるようケアの見直しを同時 に検討・実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	毎日の家事仕事、季節の飾り物 の作成、その他レクリエーション などを通じて、できることの継 続や、各々役割を持つことなど 、楽しみごとを広げてゆけるよ う支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。	コロナ禍以前は、買い物や近く の散歩、外出などの機会が確保 できるように努め、日々の会話 のなかからもご本人の希望を 聞き取り、実現に向けて取り組 んでいた。また、その際にはご 家族とも共有させていただき協 力を得ていたが、現状は新型コ ロナ感染防止のため、敷地内 の散歩以外控えるようにしてい る。	利用者・家族と職員と一緒に車 で観光農園のいちご狩りに出か けていたが、現在は外出はでき るだけ控えている。事業所敷地 内の散歩や畑の水やりや収穫で 季節を感じる支援をしている。 事業所内で職員のアイデアや提 案で四季折々の行事を行い、利 用者が職員と一緒に楽しめる支 援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援し ている。	ホーム規則では所持金は認めら れていないが、必要に応じてホ ーム立て替えにて対応し、ご不 便のないようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目（ 北 ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	各ユニットに電話があり、希望時ご家族に電話をかけてもらっている。ゆっくり話せるようプライバシーに配慮している。手紙を書かれた時は一緒に投函するなどしてご家族に送るようにしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清潔・整理整頓に努め、季節の花や飾り物などを設けている。また、より季節を感じていただけるよう、季節ごとに模様替えできる手作りカレンダーを作成している。	殺風景にならないよう季節の飾り付けや職員と一緒に制作した作品、習字や分かりやすいカレンダーを掲示し、机、椅子の高さなどに配慮し自然姿勢が保てるよう工夫をしている。イベント時にはユニット間の交流があり、洗濯たたみや台拭きなど家庭的な雰囲気の中で落ち着いて過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間であるリビングにソファを設置し、ご自由にお過ごしいただける場所を設けている。日常の使い方としては、数名で会話を楽しまれたり、テレビを観てゆっくり過ごしたりと思い思いに過ごしていただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れたタンス・テレビ・鏡台・仏壇・小物などを持ち込んでいただき、家族写真を飾るなどして居心地良く安心して過ごせるよう工夫をしている。	エアコン、ベッド、カーテン、照明器具など設置している。自宅で使い慣れたタンスや大切にしている趣味の作品など持参している。配置も導線に支障のないよう設置している。家族の写真、孫の写真、小物類を飾り、カーテンをお洒落に開閉するなど居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	シルバーカーや歩行器、車椅子の方も自由に行き来できるよう、狭い中でも動線を工夫している。1フロアのメリットを活かし、ユニット間の移動も自由にされている。どちらのユニットも見渡せる環境であるため、見守りもしっかり行えている。		

V アウトカム項目(北) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項 目（ 南 ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念実現に向けて「ゆっくり・いっしょに・たのしく」という基本方針をホールに掲示し、朝礼の際に唱和行なうことで常に意識できる環境づくりと、面談や課題表記入の際にも理念に向けた実践について協議する時間を設けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域住民とは日頃から挨拶や回覧板の受け渡しを行ない顔の見える関係作りに努めている（育てた野菜を交換することもあり良好な関係である）。今年度より、町内会に加えコイン通り商店街の組合へ賛助会員として加入。より地域へ根付いた施設運用を行なっていく。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ホームへの問合せ・相談は随時受け付けている。また、ご要望に応じて自宅にお伺いし資料を用いて説明・紹介等している。その際、自ホームの情報だけでなく他ホームの情報なども確認し、お伝えすることを心掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在、コロナ禍により意見照会による開催となっているが、いただいた意見をホームの運営に反映させている。また、他法人の運営推進会議（意見照会）にも積極的に関わり情報交換している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	区の介護保険課との具体的な連携はない。但し、運営推進会議(意見照会)にて地域包括支援センターの方と意見交換や地域の情報を共有させていただいている（コロナ禍前は、運営推進会議に参加いただいていた）。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (南)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年間研修スケジュールに組み込み、職員の意識向上に努めている。また、3ヵ月に1回、身体拘束適正化委員会を開催し、各ユニットの情報共有を図り、身体拘束をしないケアの実践に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年間研修スケジュールに組み込み、職員の意識向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度についての勉強会を来期のカリキュラムに加え、見識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項／契約書など、説明を丁寧に行ない同意を得ている(不安なことや疑問なことがないか確認している)。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時や電話をする際に意見交換させていただき、何かあればミーティングの議題としている。また、運営推進会議(意見照会)やケアプラン変更時の面談などで意見・アドバイスをいただいている。		

自己評価	外部評価	項 目 (南)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体ミーティング、及びユニットミーティングで意見・提案を聞く他、面談や日常的にコミュニケーションを取り意見や提案を発信しやすい環境づくりに取り組んでいる。※ミーティングについては、コロナ禍の影響により書面回覧対応とした月あり。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	キャリアアップ制度を整え、給与水準・労働条件などの職場環境を整備している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月、ホーム内勉強会を行ない、知識を身につける機会を確保している。現場内での役割の意識、個々の能力に応じてアドバイスや指導を行なっている。尚、感染症の状況を踏まえ外部研修にも参加していく方針としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	運営推進会議への参加（意見照会）や、地域（包括）主催の勉強会・イベントに参加している。また、区のグループホームネットワークに加盟し、空室状況等の共有も行なっている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にケアマネジャー、ご家族、医師、相談員等、関係者から情報提供を受け、訪問面談を実施している。また可能であれば、入居前にホーム見学(ご本人)してもらい、安心していただけるように努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (南)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時資料(ご家族記入分)を基に話し合いを重ね、ケアプランに反映している。入居後もメールや電話により日々の様子を報告・相談させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人・ご家族の思いを丁寧に聴きとり、できる事とできない事を見極めて、ご本人に合ったケアプランを作成するように努めている。また具体的なサービス内容を明記することで支援の統一を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活の中でご自身でできることを活かして、それらを持続していけるような支援に取り組んでいる。ちょっとした役割を持ち、それに対して周りから感謝されることで生きがいを感じながら過ごすことができる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の面会時や電話で会話をされた際に、ご本人のとても良い表情がみられることをお伝えてしている。また、毎月のご様子を送付し、気付きや相談を日々させていただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人・知人の来訪にはホームをあげて歓迎していたが現在はコロナ禍により親族のみとさせていただいている。しかし手紙や電話の取次等、今できる範囲の支援をさせていただいている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (南)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活のなかで入居者同士のコミュニケーションを大切にし、皆さんが主役となるように職員が関わることで、良好な関係づくりを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	長期入院となり退居する事となっても、ご本人・ご家族が困る事がないよう、円滑に次の支援につながるサポートを行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の関わりの中で、表情・言葉・エピソードなどを日誌や伝達ノートに記録し情報共有できるようにしている。また、計画作成担当者が計画業務日に職員の気づきを聴き取ったり、ユニットミーティングにて、各入居者様の思いや意向を把握しケアプランに反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にご家族からこれまでの生活や性格、ご本人の思い、家族関係など無理のない範囲で聞かせてもらっている。入居後ご家族との信頼関係ができてから、あらためて聞かせていただいた貴重なお話は、職員とも共有しこれからの関わりに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケアプランに基づき日々関わらせていただくなかで、変化・気づきを記録にまとめるようにしている。また、情報共有のため申し送りの場を活用したり、検討事項についてはユニットミーティングにて話し合いを行なっている。		

自己評価	外部評価	項 目（ 南 ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月モニタリングを実施し、1年毎に見直すほか、状態に変化が生じた場合はその都度話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	出勤している全ての職員が記録業務に関わるようにしており、小さな発見も見逃さず記録している。また、職員間で情報を共有できるよう連絡ノートの活用も行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	職員の友人・知人・ボランティア、ご家族などに運営に関わってもらい個別化・多様性への対応に取り組んでいたが、コロナ禍により外部の方の入出が厳しいことから、ホーム内に居てもお出掛けした気分になれる行事（屋台風のお店や映画館など）に力を入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域行事やお店、施設などに入居者様と出向き、顔の見える関係を広げることで、地域での暮らしを楽しめるよう支援していたがコロナ禍の影響により制限が増えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	内科／歯科の先生に訪問診療（2回／月）をお願いしている。定期処方や緊急時の対応、疾患を早期発見できる体制を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目 (南)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	各ユニット週1で訪問看護による日々の健康チェックを行なっている。また、体調に変化があった場合には、いつでも電話対応できる環境であり、状況に応じて様子を観に来てもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院には職員が同行し、ホームでの様子・暮らし方などを入院先に提供している（入院時）。入院期間中もMSWとの連携を行ない退院時にはカンファレンスに出席し、病状の説明を受けることで、安心してホームでの暮らしに戻れるように取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約の際、重度化／終末期に向けた方針についての確認書をお渡しし、意向などをお聞きしている。その上で、主治医・看護師・ご家族・ホームで連携・共有し、支援させていただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時連絡網を整備している。ヒヤリハット・事故報告はユニット全員で分析し、情報共有している。また、「緊急時の対応・応急救護」についてのホーム内研修を開催し、学べる機会をつくっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、消防署の協力を得て、昼夜間想定避難訓練を実施している。また、防災委員を選任して全社を挙げて減災に取り組んでいる。来期よりBCP（災害・感染）の研修会も必須となるため全体ミーティング研修会にて行なう事としている。		

自己評価	外部評価	項 目（ 南 ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	接遇・倫理研修等を実施し、不適切なケアについて考えてもらう研修を行なっている。また、不適切な言葉遣いなどがあつた場合には職員間で注意し合える関係や、管理者・マネージャーに相談報告しやすい雰囲気づくりに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	認知症の理解とケア・傾聴による尊厳の保持など、職員全員が継続して学べるよう、ホーム内研修に組み込んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日のスケジュールは、おおまかなもののみ目安としての時間を決めているが、それ以外は皆さんの思いに添って過ごしていただいている。 急なご希望にも対応できるチーム力を向上させている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節の衣替えを一緒に行ない、足りないものをご家族にお願いしている。理美容は訪問してもらい、ご本人の希望に添っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	温かいものを温かいまま提供できるよう事業所にて食事づくりをしている。下ごしらえ・盛り付け・配膳などできることを職員と一緒に行ない、同じものを食べ、会話や食事を楽しんでいる。おやつづくりや季節に合わせた行事食・リクエストにお答えした食事など、様々な側面で楽しんでいただけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目 (南)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	テーブルや椅子を整え、美味しく、楽し く食べれる工夫をしている。水分につい ても、こまめにお出しし水分量を記録す ることで各人の摂取状況による個別対応 を行なっている。※エボカフードサービ スの管理栄養士が立てた献立内容にて提 供してい る。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	訪問歯科による指導に基づき、毎食後の 清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	お一人おひとりの仕草や排泄チェック表 を活用し、排泄パターンを把握して、さ りげない声掛けや誘導で、トイレでの排 泄や排泄の自立に向けた支援を行なっ ている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分量の把握、排便の記録に努め、でき るだけ食事により便秘の予防に心掛けて いる。困難な方には医師に相談して薬の 処方をしてもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	午前でも午後でも、ゆっくり入浴でき るように支援している(週2～3回)。入浴し たくない場合には、声掛けの工夫や日を ずらすなどして対応している。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (南)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	朝日を浴びる起床の声掛けに 始まり、夜の安眠へ導く流れを 支援している。また、シーツも 週1回洗濯し、清潔に努めてい る。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	内服・外用薬のチェック表を活 用し、確実な与薬を実施してい る。変化を記録し、減薬に繋 がるようケアの見直しを同時 に検討・実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	毎日の家事仕事、季節の飾り物 の作成、その他レクリエーション などを通じて、できることの継 続や、各々役割を持つことなど 、楽しみごとを広げてゆけるよ う支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。	コロナ禍以前は、買い物や近く の散歩、外出などの機会が確保 できるように努め、日々の会話 のなかからもご本人の希望を 聞き取り、実現に向けて取り組 んでいた。また、その際にはご 家族とも共有させていただき協 力を得ていたが、現状は新型コ ロナ感染防止のため、敷地内の 散歩以外控えるようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひ とりの希望や力に応じて、お金 を所持したり使えるように支 援している。	ホーム規則では所持金は認めら れていないが、必要に応じてホ ーム立替にて対応し、ご不便の ないようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目 (南)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	各ユニットに電話があり、希望時ご家族に電話をかけてもらっている。ゆっくり話せるようプライバシーに配慮している。手紙を書かれた時は一緒に投函するなどしてご家族に送るようにしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清潔・整理整頓に努め、季節の花や飾り物などを設けている。また、より季節を感じていただけるよう、季節ごとに模様替えできる手作りカレンダーを作成している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間であるリビングにソファを配置し、ご自由にお過ごしいただける場所を設けている。日常の使い方としては、数名で会話を楽しまれたり、テレビを観てゆっくり過ごしたりと思い思いに過ごしていただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れたタンス・テレビ・鏡台・仏壇・小物などを持ち込んでいただき、家族写真を飾るなどして居心地良く安心して過ごせるよう工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	シルバーカーや歩行器、車椅子の方も自由に行き来できるよう、狭い中でも動線を工夫している。1フロアのメリットを活かし、ユニット間の移動も自由にされている。どちらのユニットも見渡せる環境であるため、見守りもしっかり行えている。		

V アウトカム項目(南) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム五日市・みどりの家

作成日

令和6年8月26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	キャリアアップ制度を整え、給与水準・労働条件などの職場環境整備。	個々に合った働き方ややりがいを実感しながら、意識や風土を向上させる。	個々の目標や、したいケアを把握し、適材・適所の人員配置を行っていく。	1年間
2	13	ホーム内の研修が主で、外部研修の参加が充分に行なえていない。	自己の成長機会を増やすことや研修で学んだことを現場で活かし、ケアの質や職員のモチベーション向上に繋げる。	外部研修に参加する。	1年間
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。